



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

### 『手入れ停滞人工林の扱い方』

通年コース第七回開催報告 「間伐」

前回、2班でおこなった測樹では、相対幹距比(Sr)がそれぞれ10と14という数字が出ました。著しく過密、あるいは過密という結果で、確かに林内は陽が差さず、暗っぽく、下層にはほとんど草木が生えていません。調査時に樹高と林齢を測るために1本だけ伐ったヒノキも、当然のようにかかり木になり、倒すのに苦労しました。

多少なりとも傾斜があれば、山側にかかり木を作って元を切り離し、トビで谷側にずらす方法もあるのですが、なまじ平地林だけにこういう方法が使いにくい。こんな時は出来るだけ高いところにロープかワイアをかけて、引くしか方法がありません。人力で無理ならチルホールなどの牽引機を使って強引に引き倒してしまおうのです。特にヒノキは枯れ枝さえもかなり強固で、樹冠が鬱閉してお互いの枝葉が触れ合っていたら、フェリングレバーやクサビは全く無力。梢は揺らせるけれど、倒れ込ますのは至難の業です。

今回は本数で4割の間伐をめざして、第一段階としてとりあえずSrを18程度まで回復させてみようという方針で始めました。20m四方の調査プロット内だけでも30本程度の伐倒が必要でしたが、2日間の間伐実において、それぞれの班、10本ほどは倒せたようです。手入れが滞っている人工林では、劣勢木から順番に伐っていく一般的な間伐法を使うと、樹冠を形成する立木に手が入るのが最後になってしまいます。だったらその前に機械的に伐つてしまえ、というのが島崎先生が提唱された2残1伐の列状間伐であり、さらには保残木マーク法の間伐です。列状間伐は選木に頭を悩ませることなく、かかり木のリスクも低く抑えられ、しかも集材が大幅に省力化で



年一度。先生の施業診断講義



むちゃ込み。ロープ掛けがいる

きるので材価が低い現在、有力な方法です。また保残木マーク法はその山林の最終形を決めたうえでマークする必要があるので、施業方針が明確になり、合目的な間伐ができること、また間伐費用補填を図ることも可能、などのメリットがある間伐法です。

鳥崎先生にもおいでいただき、通年コースフルメンバー参加の2日間でした。初日の夕方は恒例の暑気払いBBQ、飲んで食べて、お腹一杯の夜でした。

**通年コース第7・8回**  
**7月15・16日(金・土)**  
**間伐**

参加者/青木さん、阿部さん、小口さん、唐澤さん、木村さん、小池さん、澤田さん、洪沢さん、水津さん、スタッフ/島崎先生、和泉田上、早川



もう6年目。受け口の方向ばっちり



伐倒前の鬱閉状態

**次回以降の予定**  
**集中コース(夏)の部**  
**7月29(日)31日(金)日**  
KOA森林塾のエキスを集めた3日間です。森林調査(測樹)から診断、チェーンソーの扱いを覚えて、実際の間伐作業と、一連の流れを覚えていただきます。  
初日の29日(金)には島崎先生にもご参加いただけました。

業診断の肝各種間伐法



2年目、様になってきた



伐倒初体験。ドキドキ



1本倒すと空に穴が開く

の相違などを教えて頂きましょう。この日は懇親会も計画していただきますので、山談義も聞けるかも。

**通年コース第9・10回**  
**8月26・27日(金・土)**  
**間伐・集材**

駒ヶ根のヒノキ林で引き続きの間伐作業と、ウィンチを使った林内作業車などでの集材実践です。



専門コース第2回開催報告

『伐倒の小道具を使いこなす』

トビヤクサビ、フェリリングレバーにロープ、木回し、さらにはチルホールなどの牽引具、ワイヤや布のスリング類、シャックルやクリップなどの金物等々、伐倒にはいろいろな道具が必要で、また、ロープをかけるためには梯子や、登ると

きの安全帯、あるいはスローラインを使ってロープをかける時もあります。それぞれの道具、小道具にはいろいろな使い方があり、ロープひとつとっても掛け方や結び方は様々。結び方それぞれに長所や短所がありますので、それを覚え、適材適所に使いたいものです。



こちらはフェリリングレバーの下

他の小道具も、塾の時間の中で一つ一つ丁寧にお教えすることはできませんが、時には



クサビを打ってすぐ下を伐る

山仕事で使うロープの結び方で、是非覚えておいていただきたいのはボーライン(もやい結び)、ランニングボーライン、ティンバーヒッチ(ねじ結び・丸太結び)、クローブヒッチ(巻き結び)の4つくらいでしょうか。これだけしっかり覚えておけば、大体困らない範囲で仕事ができると思います。スローラインも少し練習して思ったところに投げられるようになれば便利です。

いつもと違った道具を使った伐倒や、かかり木処理を体験してみたいと思っただけです。期待。

特別寄稿



『伊那谷おすすめスポット』 宮下哲也さん

学生時代には登山のため伊那谷(地元の人は南アルプスと中央アルプスの間に広がる細長い盆地のことを愛着を込めて「伊那谷」と呼んでいます)に何度か来たことがありましたが、その後社人になってからは来る機会もなく、再び伊那谷に来るようになったのは4年ほど前からです。久しくお休みしていた登山を再開したり、夏休みに家族皆で伊那までドライブに来たりしたこともあり、伊那谷を歩き回る回数が増えてくるとともに伊那谷の良さがわかってきました。

やさん(標高1331m)。場所は簡単に言う間伐の訓練で訪れたことのある富県地区の金鳳寺の裏山をずーっと登って行ったところにあります。伊那市内から見ると、山のてっぺんにひときわ大きな木が数本立っているのが良く見えて、なんとなくオバQの頭のような感じにも見えます。高鳥谷スカイラインと呼ばれている道路が通じていて車でみまわります。6月に登ったのですが、途中では山仕事をしに来た軽トラの集団に一回逢っただけで他には人にも車にも逢うこともなく静かな山でした。山頂には石の祠と御神木、その前に広々とした空間があります。山頂から眺める伊那谷と中央アルプス、南アルプスの景色は素晴らしい一言です。いや素晴らしいなどと言う平凡な言葉では足りないかもしれません。あまりの素晴らしさに「わー!」と言ったまま開いた口が塞がらないほどの絶景です。伊那谷が全部見えて、その後ろに中央アルプスがまるで高さ三千メートルの巨大な屏風のように広がり、後ろを振り向くと甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、塩見岳など南アルプスの山々がひときわ近



冬の鹿嶺高原キノコ型キャビン

くに見える。皆さんぜひ一度晴れた日に行ってみてください。感動すること間違いありません。私が保証します。その鹿嶺高原(かれいこうげん)標高1850m程度伊那市と合併する以前の昔の長谷村役場の前から山の方に入って行って舗装された林道を登りきったところに「鹿嶺高原キャンプ場」があります。数年前、お盆休みに家族で訪れたのですがすごく良かったです。貸テナトヤキャビンがあり、キャビンはキノコの形をしていて梯子で上り下りして出入りするというちょっと風変わりな建物です。夕食はキャビンの前でバーベキューでもしようかと思ったのですが、「フルーツを食事代わりに食べれば準備も簡単だし道具もいらないよ。」という妻の意見に従って、事前にグリーンファームと言う農家持ち込み野菜などを売っているお店で大きなスイカ1つと桃を1箱、ブルーベリー1kgを買って持って行きフルーツバイキングをしました。子供たちはバーベキューをやりたかったみたいでした。夕食を終えてキャンプ場周辺を散策したり、花火をしたりしているうちに辺りは真つ暗になり、いよいよこの標高の高いキャンプ場に来た目的が達成される時が来ました。それは「お星様」です。空に輝く星の数は、東京などの大都会なら数えようと思えば数えられるでしょうけれど、「こゝ鹿嶺高原では当然ながら数えることは出来ません。空一面に光り輝く砂をぶちまけたような感じなんです。天の川もまるで雲のように見え、子供たちは生まれて初めて天の川を見て感激していました。都会育ちの子供たちに星座の名前を覚えてあげようと思って、「あれが北斗七星、あれはカシオペアだよ。」と自分が知っている星座だけ知ったかぶりをして説明したら、子供達から「もっと他の星座も教えてほしい。」と言う要求が出てしまいました。その時、親の威厳が少し目減りしてしまったような気がします。名

誉挽回のために、次に行くときはパーベキユーの準備と星座早見盤を持って行こうと思

星を眺めたくなくなったら鹿嶺高原がお奨めです。真つ暗闇の中でブルーシートを地面に敷いて寝つ転がれば夜更けまでいつまでも飽きるまで星を眺めることができます。行って後悔はしません。私が保証します。

標高930m

森林塾鳩吹き集会所とほぼ同じ等高線上、北方5km程のところにある日帰り温泉で、名前のとおり見晴らしが非常に良い。休憩所の大広間の窓は大きなガラス張りになっていて、そこから南アルプスの山々がまるでポーズをとっているかのように一つ一つきちんと並んでいるのが見えます。特に、正面に見える仙丈ヶ岳のどっしりとした巨大な山容がひときわ印象的です。天気の良い日の午後がお奨めで、夕日に照らされた南アルプスが青空を背景にしてくつきり鮮やかに見えます。こんなに眺めの良い日帰り温泉はなかなか無いのではないかと思います。

みはらしの湯は「はびる農業公園みはらしファーム」という施設の中にあり、温泉以外にも機織り体験場、農家持ち込み野菜の販売所、バイク

ングレストラントマトの木、宿泊施設「羽広荘」などの施設が整っており、私は家族で伊那にドライブに来ると必ずここに寄って行きます。

標高1950m

甲斐駒ヶ岳と仙丈岳の間にある北沢峠付近伊那市側にある山小屋。

北沢峠のバス停から少し歩かなければならない場所にあるためか北沢峠の他の山小屋に比べて静かで素朴で家庭的な感じですか。

客室は大部屋のみで、薪ストーブが置いてある土間の通路が部屋の真ん中にあります。食堂は無く、食事の際は大部屋に長いテーブルを置いて皆で一緒にずらりと並んで座ってご飯を食べます。ごはんのお替りはセルフサービスではなく山荘のおばちゃんが行って来てお椀にご飯をよそってくれらるのでなんだか田舎の実家でご飯を食べているような気分になったりもします。食事が終わってしばらくすると山荘のご主人が出てきて、「今から布団を敷きますので皆さん外に出てください。」との指示が出ます。宿泊客は、「ええっ、自分で敷くんじゃないの？山荘の人が布団を敷いてくれ

るの？」とか言いながら外に出ていきます。夕涼みも兼ねて外で待つこと暫し、「どうぞ中にお入りになってください。」と言われて中に入ると、大部屋には見事に布団が敷き詰められていて、その見事さには感心と言ったか感動すら覚えました。まるで旅館のようなおもてなしが嬉しくて、今年もまた行ってみようかなあと思っています。

その 不思議なケーキ屋（伊那市駅の近くにあつて何度か行ったことがあるのですが店の名前は覚えてません）標高640m

市立伊那図書館の玄関の向い側にある、あまり目立たない小さなケーキ屋さんです。不思議なケーキ屋と言ってもケーキ自体が不思議なのではなく、値段の付け方が不思議なのです。例えば、一個200円のショートケーキが並んでいるのに、その横では「6個人セットは一箱500円」と書いてある。その



エイラク菓子店

あまりの値段の差に驚くとともに、果たしてバラで2個400円とか3個600円で買う人はいるのだろうか？などと気になってしまいました。

標高2612m

その 駒ヶ岳ロープウェイ & 千畳敷カール

千畳敷カールは、春は豊富な残雪、夏はお花畑、秋は紅葉、冬は白銀の別世界と一年中楽しめます。ここから宝剣岳、木曾駒ヶ岳まではすぐですが、年によっては6月頃まではカール内に雪が沢山残っている場合があります。

その場合は滑落停止ができる装備を持参してください。毎年8月下旬に行われる駒ヶ根市の花火大会の日に登れば山の上から花火を見下ろすことができます。『花火を見下ろす』というのはなかなか経験できない貴重な体験です。見物の際は寒いので防寒具は多めに持参ください。以上、伊那谷（北部）おすすめスポットでした。主観も入っていますが私がお勧めに行ってみてきたところなので自信を持ってお薦めします。

リレー通信

『太陽星座は牡羊座 月星座は魚座』 唐澤 千夏



ここ最近、毎日のように土まみれになって帰宅する。畑か田んぼか林か山かと、まるで野山を駆け回る野生動物かのように日が暮れて帰へ帰り、日が昇ると再び野山へ繰り出すという日々だ。

二年前に好きだった介護の仕事を経て農業の道を目指した。きっかけは米だ。私は米が好きだ。食えることはもちろん、米を使った郷土料理の本を眺めたり、餅をついたり、お正月のしめ縄飾りを縛ったり。毎日食べるご飯も出来る限り薪で炊くようにしている。竈があればいいのだが使うのは専ら安価に購入できる簡易的なストーブ。火力がすぐ上がるため調理には重宝する。今も残る風習や儀礼などからは我々の祖先が「稲」という植物をいかに扱い所としてきたかということが日々の暮らしの中でうかがえる。連綿と続く悠久の地。日本。遙か昔から種

をつなぎつないで廻り巡ってこの国が持続してきた。稲作はその中の一つだ。

そんな米に私は助けられた。病んでいた私の精神と肉体を蘇らせてくれたのが米だ。米をよくよく噛んで食べた。300回噛んで食べたこともあった。口の中が唾液でいっぱいになる。噛み終える頃にはドリンク状態になる。それを胃から腸へと流し込み血液を循環させ新しい細胞を作る。自分と対峙をしながら肉体のそして精神の変化を観察した。徐々にもとの自分に戻っていくようになった。噛むことで唾液は第一唾液 第二唾液 第三第四と変化をし、がん細胞すら消滅させるほどの威力を発揮する。人間は食べたものでできている。これは紛れもない事実だ。おそらく私を形成している細胞の八割は米から由来するものではないだろうか(笑)。ちよつと前の日本人がそうであったように。

そんな経緯や想いが発端で農に興味を持ち始めた。今年で稲作は5年目だ。稲作といつても猫の額ほどの面積で、最初は5畝から始め今年は一反ほどの作付けである。たった一反だが春の耕運、代かき、畦塗り、お田植え、除草、追肥、畦の草刈り、稲刈り、脱穀、秋の耕運と稲作の



一連の流れをしつかりと体に染み込ませるにはいい広さである。今年は初まきからの挑戦だった。4月22日の満月の日に初をまき、育苗期間は40日弱。苗の声を少しでも聞けたらいいなあと思いつながらの管理。逐一メールや電話で指導してくださった先生のおかげで良い苗に仕上げることができた。これだけで収穫である。いやいや、まだまだ先は長いんだ。幾人かの有志が力を貸してくれ5月29、30日の2日をかけて手植えでお田植えを終わらせた。次の日の尋常でない筋肉痛に面々が悩まされたことは確かだろう。

成長を続けるはずだ。稲穂が頭を垂れる風景が待ちどろしい。そうそう、一反ぐらいの田んぼをやっても農業をしている内には入らない。私は農業の道を志したのだけど、少し立ち止まった。こんなにも米に対する想いは深いのだけれど、なかなか農業で生活するという胸が座らなかつたのだ。1年間の農業研修をした。野菜を主に栽培する農家さんだった。何故だかなかなか身が入らない。探究心が芽生えて来ない。農業の厳しさが感じられない。農業を指導してくれた親方に「お前みたいなふわふわした奴は農業経営なんてできないからやめろ!!」と勘当された。よくある話。でもないか(笑)。要するに甘ったれのブーブーパーパー野郎だったんだと。思う。独立して経営することの厳しさを知らず。にいたからだと、今になつてよう



やく気付いた。親方に捨てられて「さあ、これからどーしたもんか、どーしたもんか」と、途方にくれなかつた。不思議と沈まなかつた。どうにかなるよ

うな気がしていた。「捨てる神あれば拾う神あり」とはよく言ったものだ。製材所を抱える会社経営をしている兄が、見るに見かねて声をかけてくれた。「製材所の端材を利用して薪を作ってくれないか」と。チェンソーは父に少し教えてもらったことはある。とりあえずエンジンのかけ方は分かる。端材は山のようにある。やるしかない。番線で括つてある4mの端材を45cmで切ることにした。持ち前の行動力と体力で取り掛かり始める。がしー、スターターロープが重たくて引けない。なんとかかかってもすぐ切れなくなる。時間がかかる。またエンジンが止まる。工場の職さんに見立ての方法を聞いても明。泣きたくなつた。どうしたものと頭を抱えていた頃、図らずも近隣の森林整備を担う団体に出会う。「ねえねえ、ちなつちゃん(私の呼び名)伊那にね、森の座って団体があって、月一度の勉強会をやっているみたいなんだけど一緒に行かない？」と女が男かはたまた宇宙からの生物かと思紛うほどの大きい女子に誘われて、ついて行ったのが「森の座」さんを知る入り口であった。実は初めて行った勉強会

はあまり内容を覚えていない。とにかくチェンソーをどうにか使えるようにして薪作りの効率を上げたいことで頭がいっぱいだった。「山仕事をしている人達ならチェンソーのメンテナンスを教えてくれるはず！」なんと自分本位の考えではあつたのだが「森の座」のN村氏に相談をすると快くチェンソーの指導の承諾を頂き、早速現場へお邪魔をした。たまたま現場が家からさほど遠くない場所。エンジンの調子のいまひとつなチェンソーを見てもらつた。N村氏、少し調整をしてなんとかエンジンをかけてしまった。次は目立ての説明。バックスロープだのフックだの、デブスがどうのこうのと丁寧の説明してくださつた。その八割は耳たぶあたりで跳ね返って空中に逃げて行ってしまったのだが、実際に山で働く人を見たり、その場の空気を感じたりするのは初めてだったのでなんだかそれが嬉しかった。「なに、なに? きこりってかっこいい!」と率直に思った。昨日は主婦時々きこりのN坂さん

もこの現場で作業していたと聞き「え? あ、いつも二匹の犬たちを散歩させてニコニコ挨拶を交わすあのN坂さんが?!」単純に驚いた。だから「私も!」とこの時には全く思っていない。ほどなくして、松本の四賀村の現場に連れて行つてもらった。アルバイトというから何をするかと思つたら、枝払いと生まれ初めて伐倒を命令された。「こんな女の仕事ではない!!」がこの時の感想。次の現場は野底。ここでも一本切らせてもらつた。思つた方向に倒れなかつた。なんだこの感覚は。その次は西春近の山林。朝家を出る時にクククしている自分に気がついた。あれよあれよと山の仕事に惹かれていく自分がいた。まるで水を得た魚のようだった。

幼い頃から工場で木を挽く父の姿を見ていた。時々木を切る仕事もしていたよ。自分で、自分のことを「俺はきこりだ」と言っていた。木を切る仕事は好きだったらしい。山での作業をしていると時折祖父と父の影が霞むような気がする。製材した材木は毎日のように目にしても山で木を切る人のことを想像したことがなかつた私が、山仕事の楽しみを見出し始めたのはやはり血筋なのだろつか。小さい頃から嗅いでいた木っ端くずの匂いが私の鼻をくすぐる。田の仕事でいにしえに想いを馳せ、山の仕事で先祖を感じる。これ我が愛なり。毎日土まみれ。これでよし。

投稿大歓迎。ご意見ご質問は早川までお気軽にご連絡ください。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp

風立ちぬ。階前の梧葉すでに秋声ですね。



天空の観望台で

**おわりに**  
信州の夏は7月下旬の梅雨明けからお盆まで。お盆過ぎるともう虫の声なので、短い夏は海に山に大忙しです。あの山に登り、この川とあの海でひと潜り。でもようやく計画が出来るころにはもう